

皆満寺通信

第 10 号

「人は我を知らず、自己に迷っている。しかも一日として我を主張しない日もない。それほど人間は我を知らず、我ほど知り難いものはないのである。されば世の中の人々の主張ほど儂いものはないほど人は我を知らず自己を知らず迷っているのである。」

高光大船

「早く来い」と願った春が漸くやってきました。皆さま、如何お過ごしでしょうか。

本願力にあいぬれば
むなくすぐるひとぞなし

親鸞聖人「高僧和讃」

日頃「いかがお過ごしですか」と表現しますが、「過ごす」には、「空しく過ごす」「いたずらに過ごす」という響きもあるようです。

一日、或いは一生が終わる時、充実した時を過ごせたと心満ち足りた思いで安らげる人はどれだけいるのでしょうか。様々なことに心を奪われ、掻き乱され、いざそれを失ったときには、生きていることの意味も失われています。

本当の生きがいとは、裸の人間として自分が生きていくうえでの「いのちの役割を見つけること」なのです。「これこそが私だ」と頷ける人生を歩む。これこそが本願のはたらきなのです。親鸞さまから「空しい人生を送っていませんか」と問いかけられています。

春の彼岸会法要
東日本大震災追弔法要

私たち真宗門徒は、亡き人を諸佛と仰ぎます。身をもって生老病死の身を生きている事実を知らせて下さった大切な仏さまだと頂くのです。

お彼岸に寺やお墓にお参りするのは、先祖供

養のためではなく、私たちに先だって歩いて下さった亡き人からの願いと、念仏の教えをこの我が身をもって聞く場を頂くためなのです。

また、3.11は過ぎますが、震災により顕わになった人間の苦悩と悲嘆の問題を自らの問題として丁寧に聞き続けていく歩みは、宗祖親鸞聖人が歩まれた浄土真宗、お念仏の歩みそのものと言って良いと思います。震災を風化させないためにも追弔法要を兼ねてお勤めしたいと思いません。是非お参り下さい。お待ち申し上げます。

日時 3月20日(火) 午前10:00～

会場 皆満寺 本堂

お勤め 「正信偈」 同朋唱和

法話 前住職

花祭りと誕生児初参り

4月21日(土)午後2時から
本堂にて

ご存じの方もいらっしゃるでしょうが、4月8日はお釈迦さまの誕生日として伝えられています。そこで、お花を飾った御堂に、誕生仏といわれるお釈迦さまのお像を安置し、甘茶を注いで、お釈迦さまのご誕生をお祝いするようになりました。その伝統行事が「花祭り」です。

また、4月1日が親鸞聖人の誕生日として伝えられていることから、近年「親鸞聖人御誕生会」も勤められるようになってきました。

そこで、下記の如く誕生児初参り法要を兼ねて花祭り・御誕生会を催します。

初参り法要は「人身受け難し いま既に受く」と云われるように、尊い「いのち」を授かってこの世に生を受けたこと自体がどれほど奇跡的なことであるか、その見失いがちな事実を喜ぶ、そのあり得ない事実への感謝のお参りです。

今年で3年目を迎えますが、未だに試行錯誤の中で取り組んでいます。子どもたちと少しでも楽しくお参りできればいいと思っています。

また、何方がご参加されても構いません。大勢の子どもたちといっしょにお参りできることを心待ちにしています。ぜひお越し下さい。

お知らせ

※初参り式は冥加金1,000円を添えてお申し込み下さい。申込用紙は寺にございます。HP上からもダウンロード出来ますのでご活用下さい。

- 日 程 1.仏さまへのおまいり
2.お話「生まれてくれて有難う」
3.甘茶を注ぐ
4.腕輪念珠づくり(ビーズアクセサリー作りみたいですよ)

※ささやかですが、誕生児の方には記念の品を、お集まりの方にはお土産を用意しております。

新企画

読んで書いて味わう「正信偈」

正信偈を読み、書き取りをしてみませんか？

親鸞聖人が念仏の教えを深い感動を持って受け止め、お作りになったのが『正信念佛偈』です。

真宗門徒は朝夕のお勤めをたしなみとして、家族揃って「正信偈」を通して宗祖の言葉を味わうことを受け継いできました。

その伝統は、この50年で失われつつあり、今や「正信偈」をすらすら読みこなせるご門徒も稀となり、親から子へ受け継がれていくことも難しくなりました。その責任はひとえにお寺にあるのでしょうか。

そこで、次のように「正信偈」のお勤めの稽古と「正信偈」書き取りの会を催してまいります。

この機会に一緒に読み書きしてみませんか？

- 日 程 随時(ほぼ隔月の予定で継続します)
会 場 皆満寺 本堂
参加費 500円(テキスト代として)
テキスト 「書いて学ぶ親鸞のことばー正信偈」
申込み 4月末まで。(お電話でも構いません)
なお、申込者には詳細な実施要項をお知らせ致します
※途中からでもご参加いただけます。

書き取りの進み具合を見ながら、講師をお招きして勉強会も開催します。詳細は次号で。

「東日本大震災」救援金及び「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」支援金の御礼

寺の「報恩講」において救援金と支援金の勧募をさせていただいたところ、皆さま方からお力添えを賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともにご報告申し上げます。

「東日本大震災」救援金 ￥. 9,385

※救援金の総額は、￥.715,071 です。

「子ども会 in 東別院」支援金 ￥.14,429

上記の救援金、支援金共に昨年末、名古屋教務所を通して納入させていただきました。ご支援、誠にありがとうございました。

「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」開催！

様々な方からのご支援を頂いて、去る12月23日から29日まで福島、二本松市の14家族43名の方々をお迎えして開催することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

期間中、餅搗きやゲーム等をしながら、親子で放射線量を気にせず楽しく過ごしていただくことが出来ました。

バスが境内に到着し、何も気にすることなく砂利を手にする子どもたち、そんな当たり前に出ていたことが出来る、その嬉しそうな顔にこちらが救われました。その上、「忘れられていないことが励みになる」という言葉も頂きました。

今回は、当寺のご門徒の娘さんもボランティアスタッフとしてほぼ全日程関わって下さいました。今後もこうした活動は継続していくことが大切です。帰られるときに「これから何十年、何百年と続く放射能との戦いに帰ります」と話された参加者さんがいらっしゃいます。お寺としても出来ることは僅かだとは思いますが、続けていきたいと思っています。今後も呼びかけをさせていただくことがあろうかと思えます。その時はご支援のほどよろしくお願いいたします。

真宗本廟「御正当報恩講」御満座へ 団体参拝実施

去る11月28日、東本願寺「報恩講」の御満座に参拝し、宗祖親鸞聖人と坂東曲に出遇うご縁を頂きました。

2万人を越す参拝者に驚きも覚えましたが、これほど多くのご門徒と同じ聴聞の時を頂くことが出来たことに感動しました。

参拝後、季節に相応しい京名物の「湯豆腐」を味わい、聖人がお得度をされた「青蓮院」を訪ね、聖人のご遺徳と思いに触れる日帰り参拝となりました。

本年も何らかの形でご本山へご門徒の皆様と参拝しようと思っています。詳細が決まり次第お知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。

本堂等使用冥加金の補正について

既にお知らせ済みの本堂等使用冥加金について、責役・総代会で「講」や「組」、及び公的なグループなどでの使用の場合は、原則として不要とすることに決定致しました。

これを機に「寺」を広く開放していくことができればと思います。詳しくはお寺までお問い合わせ下さい。

第2組門徒会員再任について

宗派は同朋の精神に基づいて、僧侶と門徒が共に協議することによって護持運営されています。門徒会は、同朋の公議公論という根本理念の基に、宗門の運営に主体的に関わることによって、親鸞聖人の教えのもとに出遇った人をつなぎ、また共に教えを伝える役割を担っています。

組(地域寺院の集まり)の教化活動に積極的に参加して頂き、自ら聞法に励んで頂くとともに、運営のチェックや活動の改善や新たな活動の立ち上げを提言して頂いているのが組門徒会員です。

皆満寺を代表する組門徒会員として、総代会の推薦を受け、坂口 清、深津康夫の両氏が三度目の選出を果たされました。洵に御苦労さまに存じます。

メールアドレス変更について！

レンタルサーバーの切り替えに伴い、今までお知らせしていたメールアドレスが変更されました。業者より十分な説明を受けておらず、事前に皆さまにお知らせすることが出来ませんでした。

2月1日以降、メールの返信がない、送信できない等のご迷惑をお掛けした方には心よりお詫び申し上げます。以降、このようなことがないよう心掛けてまいります

また、各種問い合わせ等にもご活用下さい。

(新) info@kaimanji.or.jp

堂宇の一部補修について

1. 鐘樓の階段に、安全確保のため「手摺り」を設けました
2. 本堂と鐘樓に、糞害を避ける「鳩除けネット」を設置しました。

住職の研修会報告

春先はカルトの勧誘にご注意を

先日、カルト問題に関する学習会に参加してきました。日本脱カルト研究会などによると、カルト集団の勧誘がこれから迎える春先に多発しているということでした。

具体名を挙げるわけにはまいりませんが、高校、大学生をターゲットに所謂「サークル」の隠れ蓑を纏ったものが未だに多いと云うことでした。宗教カルトもあれば、経済カルト的なもの、大きな集団、小さい集団、様々なものがあるようでその被害の実態は予想以上でした。

被害に遭っているのはごく普通の家族です。しかし、自分にも経験がありますが、その年頃はなかなか家族と話をしたがないし、自分で決めていきたい年頃なので、家族との距離感も生まれる時期的なこと手伝い、気付くのが難しいのだと言うことでした。しかし、気付いてあげられるのは身近な方でしかないんですよ。

日常は気付こうともしなかった、気付いてあ

げられなかった、悩んでいるのは分かっていたけど、判ってあげられなかった…と言うことの繰り返しです。けど、身近な人以外にはなにもできないんですよ。干渉しすぎもダメ、無関心もダメだけど、大切な家族であり、身内であり、友人です。

春先は心も緩みます。警戒してばかりでは何も楽しくありません、けど、おかしいと思ったら止める、いい人そうに見えてもきっぱり断る、そういうのってほんとに大切だと知らされました。

それによくよく考えてみると、危ういのは僕らの方です。どんな分野でもカリスマがマスコミでもてはやされ、僕らはそれに乗っかってしまっている。他人事ではないんです。

カリスマ性のある人の影響力は絶大だし、世は一大スピリチュアルブームの真っ直中、大いなる力、神秘的な力に畏敬の念を持つことが宗教心とされる面もあります。しかし、そうした私たちのある意味常識的な宗教心が、むしろ自分自身と自身が関わる世界の姿と課題に目を覚まし、一人の人間として独立することを阻むと云うことを問題にしてきたのが親鸞聖人の仏教です。自分の有り様を見つめ直さないといけませんね。

住職のつぶやき

▼「東日本大震災」と「福島原発事故」の勃発から一年。その上、豪雨・豪雪にも見舞われ、また、経済的不況も加速し、否応なしに未曾有の不安と苦難を意識せずにはいられません。この世は「諸行無常」であり、「無有代者」(代わる者あることなし)という厳しい事実を、これほど覚えたことがあったでしょうか？

▼奇しくも昨年「宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要」及び「御正当報恩講」の年でした。しかし、あの大災害は御遠忌を中止、変更を余儀なくさせるほどの大きなものでした。そこに御遠忌の意味さえ、見失われてしまった。「宗祖としての親鸞聖人に会う」ことが願われ、御遠忌は勤められようとしたのにである。

▼それにしても、地震や津波の被害は甚大である。甚大ではあるけれど、時間を掛ければ再生できる。しかし、原発の問題は先が見えない。福島

はほんとにこのままでよいのだろうか？いや、良いはずがない。福島からの「助けてください」という声が忘れられない。

▼しかし、復興が声高らかに宣言されたが一向に進んでいかないのは何故か？私たち一人一人の意識が苦悩の声に寄り添う気がない、そこに身を置く覚悟がないからだという先輩僧侶の言葉が心に響く。そこに他人様の苦悩が、なかなか我が身に添うことのない悲しさがある。

▼親鸞聖人は、五木寛之さんの小説で描かれていたように民衆の中で民衆に寄り添い、民衆と共に苦悩していく生涯を送られました。

▼福島の実況、悲しみは、人間の苦悩そのものです。今を生きる私たちはどう向かい合い、自分の課題として生きるのかが問われています。

親鸞聖人の御遠忌に出遇った私たちは、今ここで、改めて親鸞聖人に試されているのかも知れません。

▼「寺」には、「聞法の道場」として「宗祖親鸞聖人のみ教え」を共に聞き開き、その教えをご門徒の方々へお伝えする大きな使命があります。

真宗では、聞法、聴聞と言うことを大切に受け継いでまいりました。それは知識を増やすための聞き方としてではなく、自らの生きざまの上で聞き開いていくことを大切にしてきたのです。

今こそ、その使命を果たして行かなきゃならない。そう感じております。

後書き

▼今回も文字だらけの通信に…。もうちょっと読みやすく、読む気が起こるようなものにしたいといけないとは思いますが…。ご意見などお寄せ頂ければ幸いです。 合掌

皆満寺通信 第10号

2012年3月12日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町宇下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail info@kaimanji.or.jp